

春合宿第3問

甲は、Aとの喧嘩の際、Aに傷害を負わせたため、一旦は建物の階段を下りて外へ出てその場から逃走しようとしたが、憤りが収まらず、思い直して立ち戻り、殺意を持って、傍らに置いてあったナイフで倒れているAの胸部を数回突き刺した。その後、重傷を負いながらもAが逃げ出そうとしたので、一旦はこれを同階内に引き戻したものの、再度Aが隙を見てビルの5階から1.5メートル離れた隣のビルの屋上に飛び降りようとするのを発見した甲は、Aを連れ戻して同所に火を放ち焼死させようと考え、素早く背後からAに掴みかかったところ、Aはバランスを崩し、隣のビルとの隙間に転落し、全身打撲によって死亡した。

甲の罪責を論ぜよ。